

今週のテーマ

生活・文化

# 織 研 教 室

## 先端多様性都市「メルボルン」

商い創造研究所・賑わい創研代表取締役 松本大地

20年2月にオーストラリア・メルボルンを訪れた後、オーストラリア政府は全世界に広がったコロナ禍対策で、翌3月には国境閉鎖を宣言した。メルボルンでは世界最長の262日の長いロックダウン(都市封鎖)期間を経験したが、今回再訪したこの街は、コロナ前よりもさらに活力に満ちていた。

### 共存共栄する多文化

オーストラリアの国土面積はアラブを除く北米とほぼ同じ大きさで、日本の約21倍の面積がある。人口は約2600万人で日本の5分の1ほどであり、全体の約8割がオーストラリア東部(ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州、クイーンズランド州、首都特別地域)に集中する。22年6月時点ではニューサウスウェールズ州都シドニー都市圏が人口530万人で第1位、ビクトリア州都メルボルン都市圏は502万人で第2位だったが、人口急増と一部エリアを編入したこともあり、今年4月にはメルボルンの人口が約580万人となり、シドニーを1万9000人ほど上回った。

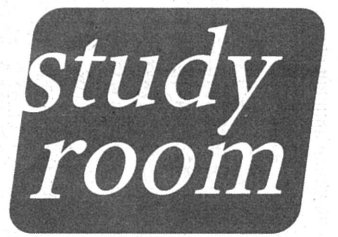
### 新たな街路の風景

シドニーが経済中心の街、メルボルンは文化やアート中心の街と言われる。ダイバーシティ思想を育みながら人を軸にしたヒューマンな都市生活が築かれる。日本の閉塞した社会を変えていく発想や実証が数多くあるが、今回は街なかのパブリックスペースの使われ方、パブリックアートの質の高さから、街が一つのキャンパスになった強さを紹介する。

メルボルンは英国エコノミスト誌にて「世界で最も住みやすい街」ランキングの第1位に連続7年で選出されるなど、日常の暮らし価値を大切にすることで住みやすい都市(Livable City)として成長を続ける。街にはダイバーシティ(多様性)、サステイナビリティ(持続可能性)、ウェルビーイング、ウォークアブル、ミクスْتُユース、アートフル、ローカルファーストの要素があふれる。ダイバーシティは人種や性別、年齢、宗教、価値観、障害の有無など、異なる属性を持つ人々が共存している状態を示し、お互いの考え方や個性を受け入れ、共に成長していく共存共栄社会の在り方を示す。その本質とは何か、真の多様性とは何かがわかる街だった。



メルボルンのサブカルチャーを醸成するレーンウェイ・アート

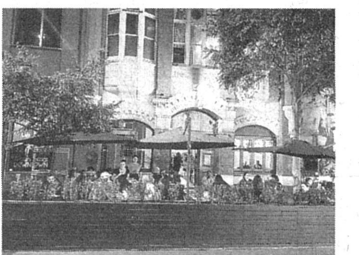


88年に英国の植民が始まり、1850年代のゴールドラッシュで移民が急増したが、2度の世界大戦では戦死者も多く国防や経済面からも移民受け入れ政策を進めた。ヨーロッパ、アジア、先住民であるアボリジニ文化も共生する多文化国家の道を歩み、現在は200を超える国・地域からの移民が暮らす。それぞれの文化を守りながらも寛容に重なり合い、魅力的な多文化社会が形成される背景もあって、メルボルンは多様な移民で作られた多様性、多重性が息づく街となった。

以前、「織研教室」で紹介したのはアーケード(Arcade)とレ

## 未来につながるソフトとハードの両輪

まつもと・だいち マーケティング、プランニングから業態開発、プロデュース業務を推進。領域は最新のSCプランから街づくりまで及ぶ。経産省コト消費づくり委員、鎌倉市アドバイザー、IFI(ファッション産業人材育成機構)講師。全国で街づくり講演や、米ポータランドのライフスタイル、街づくり研究から新たな時代潮流を発表。18年6月リアルメリットを研究開発する賑わい創研設立。著書に『最高の商いをデザインする方法』(エクスマレッジ社)。



飲食店の売り上げ増と街のにぎわいをつくるパークレット

### 多様性の正しい理解

さて、我が国では少子化は喫緊の課題であるが、重要なのは「子育て世代にとって前向きな気持ちになれる居場所をつくること」ではないだろうか。メルボルンは都市面積の25%も公園があり、良質な図書館は自由滞留を促し、美術館や博物館はほとんどが無料で鑑賞できる。中心部(CBD)区間を走る路面電車は無料で乗車できるウォークアブルな街は、子育て世代にとっても日常の暮らしの居場所になっていた。

メルボルンで驚いたのは、高級レストランにも家族が赤ちゃんを連れて食事を楽しむ光景だ。時には子どもが泣いたりすることもあるが、周りの人たちは特別視するわけではなく、何事もないうように同じ空間で楽しむ。郊外のショッピングモールのフードコートでは突然奇声を上げた子どもがいたが、誰も迷惑がった視線を浴びせることなく、当たり前のように過ごす姿もあった。

冒頭で述べた多様性を意味するダイバーシティ(Diversity)は何か本意なのかが、今回のメルボルンのライフスタイルを体験してやっと腑に落ちた。多様性とは、「人々の優しさにより思いやりがつけられ、互いに尊重しあう社会」ではないだろうか。大切なのは私たちが大人がダイバーシティを正しく理解することだ。未来につながるソフトとハードの両輪が機能する街づくりを目的に、どちらを欠いてもならない表裏一体であると確信した。今、メルボルンは先端多様性都市のトップランナーを疾走する。

今回は土日に開催されたアートマーケットの「The Rose Market」を訪れた。道路ペインティングがされた区域の広場での、多彩な作家の作品が並ぶマーケットだ。ここでも地域全体で若い世代の新しい才能や思考を理解し、受け入